

国語

練成古典問題集

● 本書の特色と構成 ●

1 本書の特色

このテキストは、古典の読解の基礎となる知識の確認と、古典読解にかかわる基礎的なトレーニングを目指した実践的教材です。精選された素材により、基礎知識の理解が深められるような、また読解の基本がマスターできるような内容を持たせて編集してあります。

2 本書の構成

本書は、大きく分けて、二部構成になっています。第一部(単元1～単元7)は基礎知識の確認を目指した内容になっています。また、第二部(単元8～単元12)は読解の基本を習得することを目指した内容になっています。特に第二部の読解問題については、第一部の基本に戻って復習ができるように、フィードバック表示(℞)を付してありますから、所定の単元に戻って学習し直すことが可能です。

◇基礎知識の確認 古典読解に必要な基礎知識を、7項目に分け、それぞれの項目ごとに単元が設けられています。また、文学史については、その作品が成立した時代の文化にまでふみこんでいるので、時代の流れを的確に把握できるようになっています。

◇読解問題 単元8～単元12は、収録作品のジャンルによった単元構成となっているので、それぞれのジャンルに応じた読解練習をすることができます。

◇フィードバック表示 それぞれの読解問題には、フィードバック表示(℞)がされています。これにより、弱点箇所について、常に基本に立ちかえって、基礎知識の確認ができるようになっています。

◆ 目次 ◆

◇第一部 基礎知識の確認◇

1 歴史的かなづかいに慣れよう

..... 2

2 古語の意味をとらえよう

..... 4

3 語の省略や会話文に注意しよう

..... 6

4 古文特有の語法を理解しよう

..... 8

5 漢文の読み方に慣れよう

..... 10

6 漢詩の形式と構成に注意しよう

..... 11

7 日本の文学の流れを理解しよう

..... 12

◇第二部 読解問題◇

8 説話

..... 14

9 物語

..... 20

10 日記・紀行文

..... 24

11 随筆

..... 28

12 漢文・漢詩

..... 32

1 歴史的かなづかいに慣れよう

◇学習の要点◇

◆「歴史的かなづかい」の「現代かなづかい」への書き改め方

1 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」

例 かは → かわ 思ひ出 → 思い出 とふ → とう
まへ → まえ かほ → かお

2 「ぢ・づ」→「じ・ず」

例 もみぢ → もみじ よろづ → よろず

〈注意〉現代かなづかいでも「ぢ・づ」となるものもある。

例 つづく ちぢむ 気づく はなぢ

3 「ゐ・ゑ・を」→「い・え・お」

例 ゐど → いど こゑ → こえ をとこ → おとこ

4 「ア段+う」(a+u) → 「オ段+う」(o+u)

例 やうす → yausu → yousu → ようす
あふぎ → あうぎ → augi → ougi → おうぎ

5 「イ段+う」(i+u) → 「イ段+」(ø+う)(yu+u)

例 しうり → siuri → syuuri → しゅうり

6 「エ段+う」(e+u) → 「イ段+」(ø+う)(yo+u)

例 てふてふ → とうとう → teuten → tyoutyon → ちようちよう

7 「くわ・ぐわ」→「か・が」

例 くわし → かし ぐわんじつ → がんじつ

8 「む」→「ん」

例 行かむ → 行かん せむかたなし → せんかたなし

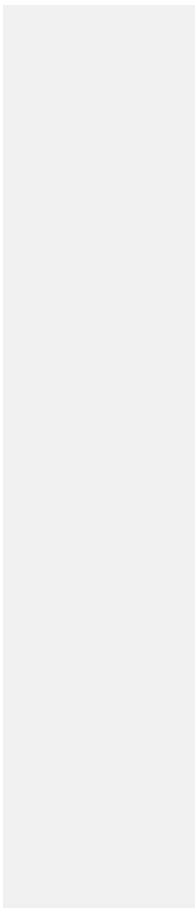
1 次のことばを現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

- (1) おほかた (2) にはか雨 (3) ゆゑ
- (4) しづかなり (5) ゐのしし (6) くふ
- (7) ふぢ (8) きのふ (9) ゐなか
- (10) わらひごゑ (11) まるる (12) つはもの
- (13) をとめ (14) おほひ (15) あはせる
- (16) うゑる (17) しづく (18) をかし

(16)	(13)	(10)	(7)	(4)	(1)
(17)	(14)	(11)	(8)	(5)	(2)
(18)	(15)	(12)	(9)	(6)	(3)

2 次の古文と、その現代語訳を読んで、——線部のことばを現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

〈古文〉



〈現代語訳〉

〈安楽庵策伝「醒睡笑」より〉

ある人が銭を(土の中に)埋める時に、「きつと人の目には蛇に見えて、

私が見る時だけ「銭になれよ」と言うのを、家の者が聞いていて、銭を掘り出して代わりに、蛇を入れておいた。前述の(銭を埋めた)亭主が、後で掘って見ると、蛇がいる。「おい、私だ。やあ、見忘れたか」と何度も名をつたというのは、聞く価値のある話である。

④	①
⑤	②
	③

3 次のことばを、()内の漢字で表したことをばを参考にして、現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> (1) かうし(格子) | <input type="checkbox"/> (2) かうだう(講堂) |
| <input type="checkbox"/> (3) さうし(草子) | <input type="checkbox"/> (4) ざぶごん(雑言) |
| <input type="checkbox"/> (5) たふとし(貴し) | <input type="checkbox"/> (6) はふべん(方便) |
| <input type="checkbox"/> (7) やうじやう(養生) | <input type="checkbox"/> (8) いうぜんぞめ(友禅染め) |
| <input type="checkbox"/> (9) きうしゅ(旧主) | <input type="checkbox"/> (10) きふしよ(急所) |
| <input type="checkbox"/> (11) じふごや(十五夜) | <input type="checkbox"/> (12) ちう(宙) |
| <input type="checkbox"/> (13) にふだう(入道) | <input type="checkbox"/> (14) えうじ(要事) |
| <input type="checkbox"/> (15) けふ(今日) | <input type="checkbox"/> (16) せうしやう(少将) |
| <input type="checkbox"/> (17) てうし(調子) | <input type="checkbox"/> (18) れうり(料理) |

(16)	(13)	(10)	(7)	(4)	(1)
(17)	(14)	(11)	(8)	(5)	(2)
(18)	(15)	(12)	(9)	(6)	(3)

4 次のことばを現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

- | | | |
|------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> (1) さうざうし | <input type="checkbox"/> (2) てうづ | <input type="checkbox"/> (3) まうす |
| <input type="checkbox"/> (4) かうべ | <input type="checkbox"/> (5) くわんぜおん | <input type="checkbox"/> (6) きやう |
| <input type="checkbox"/> (7) やうやく | <input type="checkbox"/> (8) うつくしう | <input type="checkbox"/> (9) やむごとなし |
| <input type="checkbox"/> (10) せうせう | <input type="checkbox"/> (11) ゑかう | <input type="checkbox"/> (12) ぐわいぶん |

(10)	(7)	(4)	(1)
(11)	(8)	(5)	(2)
(12)	(9)	(6)	(3)

5 次の古文と、その現代語訳を読んで、——線部のことばを現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

〈古文〉

〈現代語訳〉

〈清少納言「枕草子」より〉

笛は、横笛がたいそうすばらしい。(その音が)遠くから聞こえるのが、だんだん近づいてくるのも趣深い。(逆に)近くに聞えていたのが、ずっと遠くになって、ほんのかすかに聞えるのもまた趣深い。

④	①
	②
	③